

株主通信

第96期

2021年4月1日～2022年3月31日

JANOME

証券コード：6445

株式会社ジャノメ



JANOME
100
YEARS
since 1921

株主のみなさまへ

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに第96期(2021年4月1日から2022年3月31日まで)の事業の概況についてご報告申し上げます。

当期におきましては、新型コロナウイルスの感染拡大と減少が繰り返される中、ワクチン接種の広がりとともに、一定程度の感染リスクを許容しつつ、経済活動を正常化させる動きが各国で強まり、国内外で経済は回復傾向が続きました。一方で、世界的な物流遅延や部品不足は依然として解消されず、さらにはロシア・ウクライナ情勢の影響でエネルギー・資源価格が一層高騰するなど、多くの懸念材料が残っております。国内においても、食品や公共料金の値上げなどの相次ぐ物価上昇が家計を直撃しており、個人消費の停滞など、景気の下振れリスクの高まりが懸念されております。

このような環境下、当社グループは当期創業100周年を迎え、好調だった前期の業績水準の保持を見据えながら、中期経営計画(JANOME 2021 Navigation for the Future)の最終年度として、巣ごもり消費を契機に裾野を広げた家庭用ミシンの更なる販売拡大と、産業機器事業の収益安定化に向けて継続的に取り組んでまいりました。

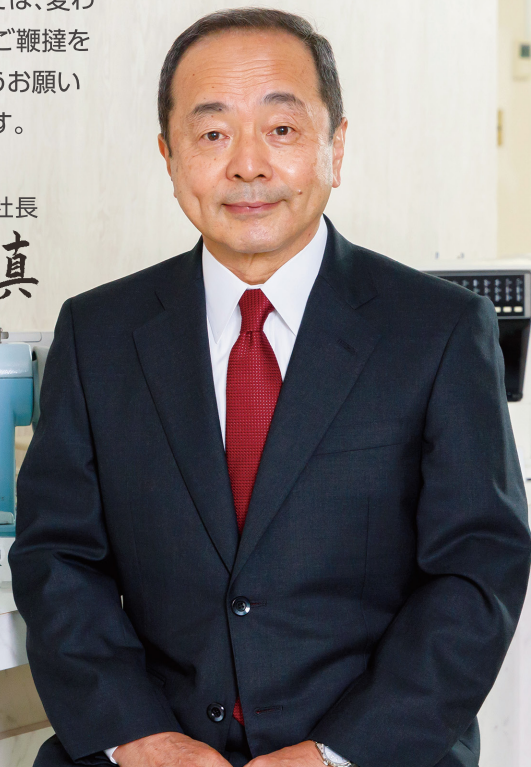
こうした中、為替レートが円安に推移したことが業績にプラスに作用した一方で、部品価格の高騰や部品調達難などにより生産・供給面でマイナスの影響を受けました。

この結果、当社グループの当期の売上高は42,916百万円(前期比923百万円減)、営業利益は3,659百万円(前期比1,271百万円減)、経常利益は3,824百万円(前期比1,207百万円減)、親会社株主に帰属する当期純利益は2,549百万円(前期比1,396百万円減)となりました。

当社グループは、今後ともみなさまからいただいた信頼を糧に、長期的ビジョンに立った継続的成長を図りつつ、収益力の高いグローバル企業を目指し、継続的な企業価値向上に向け努力してまいりますので、株主のみなさまにおかれましては、変わらぬご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

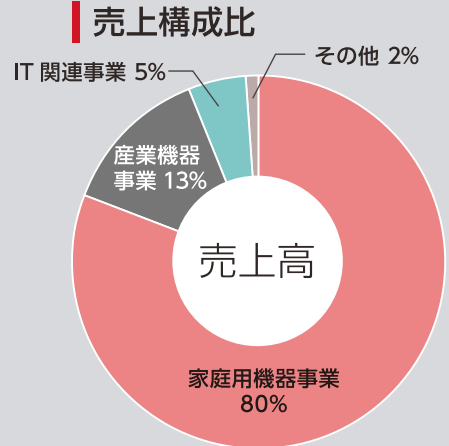
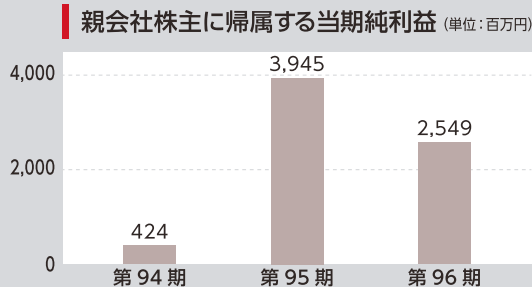
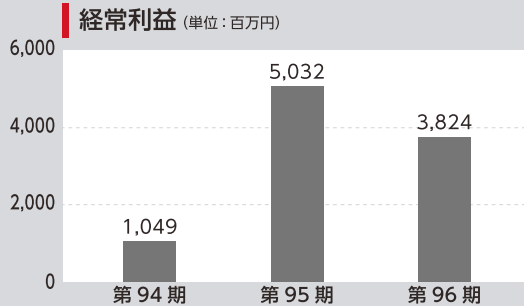
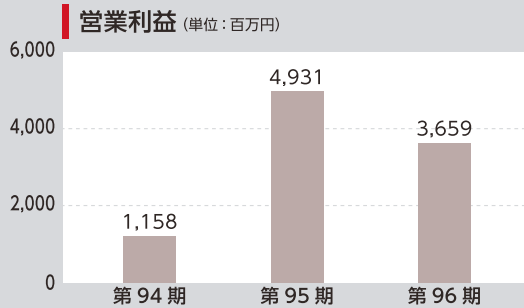
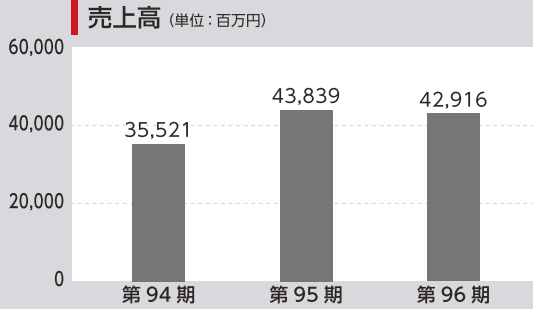
代表取締役社長

齋藤 真

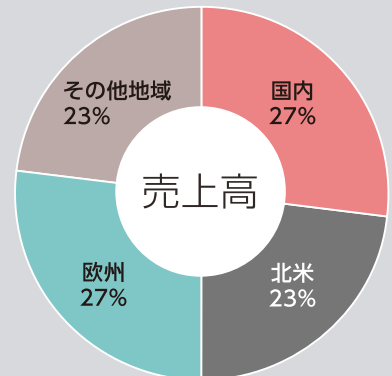


FINANCIAL HIGHLIGHTS

連結決算ハイライト



売上高地域別内訳



BUSINESS SUMMARY

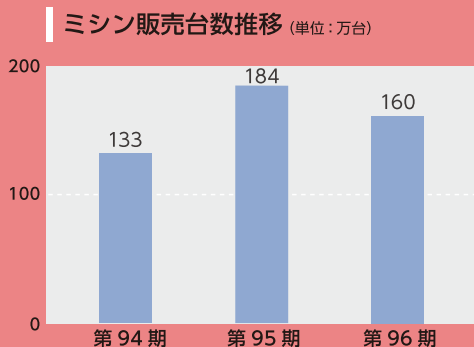
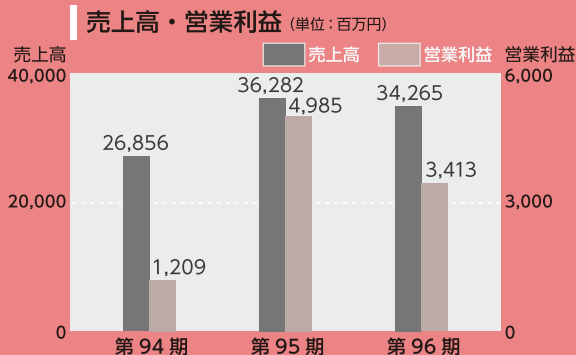
セグメント別概況

家庭用機器事業

ミシン等の家庭用機器の製造・販売



Continental M17



家庭用機器事業におきましては、依然としてコロナ禍における物流網の混乱から供給面の制約は受けたものの、海外においては、前期の巣ごもり需要をきっかけにミシンの創造性という価値が再評価されており、北米では中・高価格帯機種を中心に年間を通して販売を伸ばしました。また、欧州や大洋州、アジアなど幅広い地域でも堅調に推移いたしました。ロシア・ウクライナ情勢に関しましては、有力市場ではありますが、その発生の時期もあり、当期におけるミシン事業への影響は限定的なものとなりました。

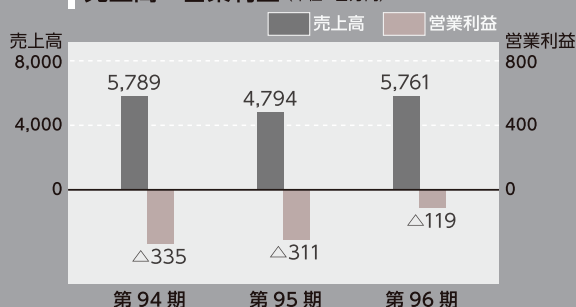
国内ミシン市場においては、ソーイング文化の普及と発展を目指し、各種展示会への出展・協賛をはじめ、SNSでの継続した情報発信など、積極的な需要喚起を行ってまいりました。こうした活動により、当社企画のワークショップではこれまで関心の低い傾向にあった若年層の参加も多く見られ、客層の広がりにつながっております。しかしながら、実績としては前年からの反動を受けた形となりました。

この結果、海外・国内ミシンの販売台数は160万台(前期比24万台減)、家庭用機器事業全体の売上高は34,265百万円(前期比2,017百万円減)、営業利益は3,413百万円(前期比1,571百万円減)となりました。

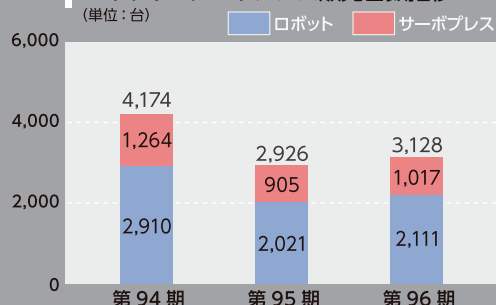
産業機器事業

卓上ロボット・サーボプレス・ダイカスト鋳造品等の産業機器の製造・販売

売上高・営業利益 (単位: 百万円)



ロボット・サーボプレス販売台数推移 (単位: 台)



産業機器事業におきましては、顧客ニーズに対応した新製品を投入しラインナップの拡充を図るとともに、オンラインを含め国内外で展示会に出展するなど、産業用ロボット業界におけるジャノメブランドの確立に向け取り組んでまいりました。こうした中、経済活動の本格化を背景に企業の設備投資環境の改善も追い風となり、卓上ロボット・サーボプレスの販売は回復傾向が続きました。他方で、半導体をはじめとした部品不足により生産面での影響は依然として残り、営業損失からの脱却には至りませんでした。



卓上ロボット (JR3000 シリーズ)
ツインテーブル仕様

また、ダイカスト鋳造関連事業におきましては、自動車業界を中心とした産業用ロボット市場の回復に伴い、引き続き受注が好調に推移し、グループ全体の利益に寄与いたしました。

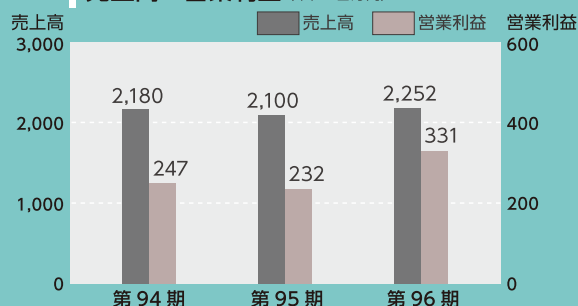
この結果、産業機器事業全体の売上高は 5,761 百万円(前期比 966 百万円増)、営業損失は 119 百万円(前期は 311 百万円の営業損失)となりました。

IT 関連事業

ITソフトウェア開発・情報処理サービス・システム運用管理の受託

ITソフトウェア開発や情報処理サービス、システム運用管理の受託等を行う IT 関連事業の売上高は 2,252 百万円(前期比 151 百万円増)、営業利益は 331 百万円(前期比 98 百万円増)となりました。

売上高・営業利益 (単位: 百万円)



連結財務諸表[要旨] FINANCIAL STATEMENTS

連結貸借対照表[要旨]

(単位：百万円)

| 区分 | | 当期 2022年3月31日 | 前期 2021年3月31日 |
|---------|----------------|------------------|------------------|
| 資産の部 | 流動資産 | 27,771 | 27,016 |
| | 固定資産 | 26,800 | 26,658 |
| | 資産合計 1 | 54,572 | 53,674 |
| 負債の部 | 流動負債 | 12,897 | 15,197 |
| | 固定負債 | 8,247 | 8,159 |
| | 負債合計 2 | 21,144 | 23,357 |
| 純資産の部 | 株主資本 | 24,495 | 22,658 |
| | その他の包括利益累計額 | 7,980 | 6,700 |
| | 非支配株主持分 | 952 | 957 |
| | 純資産合計 3 | 33,428 | 30,316 |
| 負債純資産合計 | | 54,572 | 53,674 |

POINT

1 資産の部

流動資産は、棚卸資産の増加、現金及び預金の減少等により、前期に比べ755百万円増加いたしました。

固定資産は、繰延税金資産の増加、有形及び無形固定資産の減価償却、土地の減少等により、前期に比べ142百万円増加いたしました。

2 負債の部

短期借入金の減少等により、前期に比べ2,213百万円減少いたしました。

3 純資産の部

利益剰余金の増加等により、前期に比べ3,111百万円増加いたしました。

4 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益の計上、減価償却費の計上、棚卸資産の増加、仕入債務の減少等により219百万円の資金の増加となりました。

5 投資活動によるキャッシュ・フロー

定期預金の払戻による収入894百万円、製造子会社の機械設備や新機種に係る金型等の有形固定資産取得による支出775百万円等により、150百万円の資金の増加となりました。

連結損益計算書[要旨]

(単位：百万円)

| 区分 | 当期 2021年4月1日から 2022年3月31日まで | 前期 2020年4月1日から 2021年3月31日まで |
|---------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 売上高 | 42,916 | 43,839 |
| 売上原価 | 25,584 | 25,345 |
| 売上総利益 | 17,332 | 18,494 |
| 販売費及び一般管理費 | 13,672 | 13,563 |
| 営業利益 | 3,659 | 4,931 |
| 営業外収益 | 313 | 224 |
| 営業外費用 | 148 | 123 |
| 経常利益 | 3,824 | 5,032 |
| 特別利益 | 87 | 88 |
| 特別損失 | 88 | 182 |
| 税金等調整前当期純利益 | 3,823 | 4,937 |
| 法人税等 | 1,276 | 865 |
| 非支配株主に帰属する 当期純利益 | △2 | 126 |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 2,549 | 3,945 |

連結キャッシュ・フロー計算書[要旨] (単位：百万円)

| 区分 | 当期 2021年4月1日から 2022年3月31日まで |
|---------------------------|-----------------------------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー 4 | 219 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー 5 | 150 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー 6 | △3,368 |
| 現金及び現金同等物の当期末残高 | 7,037 |

6 財務活動によるキャッシュ・フロー

短期借入金の純増減額の減少、配当金の支払等により、3,368百万円の資金の減少となりました。

2023年3月期の株主通信について

当社の株主通信は、これまで年2回(6月/11月)の発行を続けてまいりましたが、紙の使用量削減などを通じた環境への取り組み意識の高まりや株主総会資料の電子提供制度(2022年9月1日施行)をはじめとしたデジタル化の流れを踏まえ、2023年3月期の株主通信より右記の対応とさせていただきます。

当社といたしましては、ウェブサイトを通じた情報発信の充実に取り組みながら、株主のみなさまにとって、見やすく分かりやすい資料のご提供に努めてまいりますので、何卒ご理解のほどお願い申し上げます。

当社ウェブサイト(IR情報): <https://www.janome.co.jp/ir/>



表紙

海外市場にて最高級刺しゅう機能付きコンピュータミシン「Continental M17」を発売

海外向け最高級機種「Memory Craft 15000」の後継機種として発売。業界初となる2画面タッチスクリーンを搭載し、堅牢なボディによる上質なデザインと快適で贅沢な使い心地を実現しました。

役員 (2022年6月24日現在)

代表取締役
社長 CEO 齋藤 真

取締役
専務執行役員 高安 俊也

取締役
専務執行役員 土井 仁

取締役
専務執行役員 川口 一志

取締役
常務執行役員 大島 毅之

取締役 中島 文明

取締役 杉野 翔子

取締役 田中 恭代

取締役
常勤監査等委員 先槻 光弘

取締役
監査等委員 田中 敬三

取締役
監査等委員 嶋田 両児

取締役
監査等委員 住田 守

執行役員 (2022年6月24日現在)

常務執行役員 保坂 幸夫

常務執行役員 關 伸一郎

常務執行役員 木下 浩昭

常務執行役員 黒田 浩一

執行役員 石川 哲

執行役員 小林 裕幸

執行役員 岩間 英紀

執行役員 山本 慎一郎

執行役員 舌間 聖一郎

執行役員 角田 伸二

執行役員 生田 博士

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月下旬

基準日 毎年3月31日

株主名簿管理人及び
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

同連絡先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
TEL：0120-782-031（フリーダイヤル）
取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。

公告の方法 電子公告の方法により行います。ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

公告掲載のURL <https://www.janome.co.jp/>



当社ウェブサイト

株式のお手続き等についてのご注意

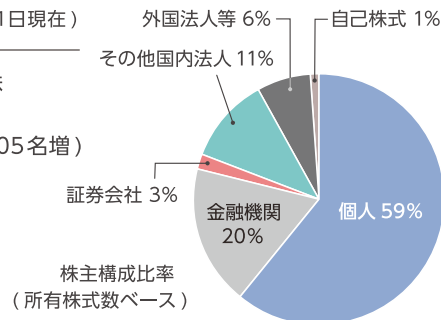
- 住所変更等、弊社株式に関するお手続きにつきましては、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）にお問い合わせください。
- 特別口座の株式に関する各種お手続きにつきましては、三井住友信託銀行株式会社が口座管理機関となっておりますので、上記連絡先にお問い合わせください。

会社概要 (2022年3月31日現在)

商号 株式会社ジャノメ
英語表記 JANOME Corporation
本社 東京都八王子市狭間町1463番地
創業 1921(大正10)年10月
設立 1950(昭和25)年6月
資本金 113億7,300万円
連結従業員数 2,971名

株式の状況 (2022年3月31日現在)

発行済株式総数 19,521,444株
株主数 18,718名
(前期末比5,005名増)



株式会社ジャノメ

〒193-0941 東京都八王子市狭間町1463番地 / TEL：042-661-3071

UD
FONT

VEGETABLE
OIL INK